

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人
------	----	-----	----	-----	----	-----

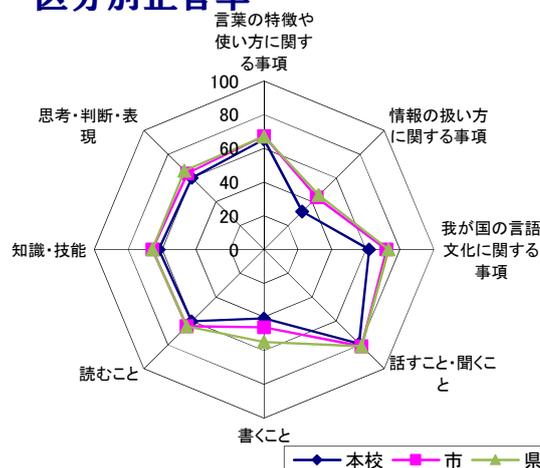
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.3	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	31.8	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	61.9	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.0	81.2	81.2
	書くこと	40.9	46.2	54.9
	読むこと	60.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	61.9	65.7	65.7
	思考・判断・表現	60.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

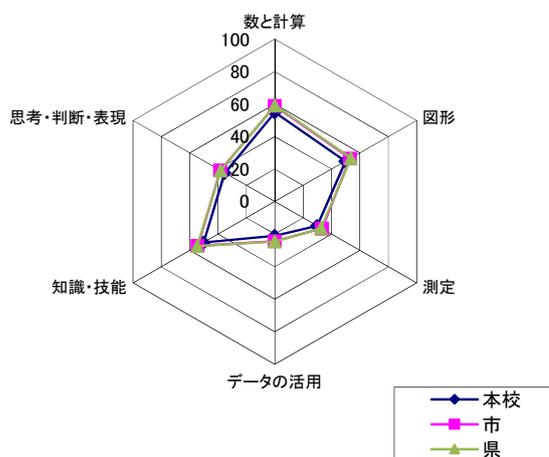
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は65.3%で、市の平均正答率より2.1ポイント下回っている。特に、既習漢字の書き取りとローマ字の問題では、市の平均正答率を下回っていて、定着が不十分である。 ○文の中における主語・述語の関係を捉える問題では、平均正答率が74.6%で、市の平均正答率よりも10.2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップタイムの活用や、AIドリルでの学習や繰り返し練習の練習をし、適宜確認テストの実施を行うなどして、漢字やローマ字の読み書きの基礎基本の定着を図る。 ・漢字の活用力を付けるために、国語ドリル等を活用し、文中の漢字を読んだり書いたりする練習に取り組ませる。 ・主語と述語を意識した短文作りや読み取りをさせることで、引き続き適切な係り受けの関係を理解できるように指導する。
情報の扱い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は31.8%で、市の平均正答率より12ポイント下回っている。 ●国語辞典の使い方の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典の使い方を理解させるとともに、国語辞典や図書資料を積極的に活用し、多くの情報に触れさせ、その中から必要な情報を選択する学習活動を意図的に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は61.9%で、市の平均正答率より10.2ポイント下回っている。 ●漢字が「へん」や「つくり」から構成されていることについての理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が、「へん」や「つくり」などの部首と他の部分とによって構成されていることをおさえるとともに、漢字の「へん」や「つくり」などから漢字を調べたり、漢字の意味や読み方を推測したりする活動を取り入れながら定着を図る。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は79.0%で、市の平均正答率より2.2ポイント下回っている。 ●話し方の工夫を捉えることについての問題や、司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができるかについての問題では、ともに市の平均正答率を下回っていて、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動において、相手に伝わるように話したり、聞き手が質問する場面を設定したりして、基本的な話の話し方・聞き方を身に付けさせるようにする。 ・メモから必要な内容を整理し、相手に伝えたり確認したりする活動を取り入れる。 ・話し合いをするときは、目的や進め方を確認して、互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合いを進めるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は40.9%で、市の平均正答率より5.3ポイント下回っている。 ●指定された長さや、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、他者に伝える機会を設け、理由や根拠を基に、段落のまとまりを意識した文章で書くことができるように指導する。 ・日記や作文、学習の振り返りなど、文を書く活動を意図的に取り入れた指導を、国語科だけでなく学校生活全体で取り組む。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は60.3%で、市の平均正答率より4ポイント下回っている。 ○物語も説明文も、叙述を基に登場人物の気持ちや文章の内容を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文に多く触れさせ、段落のまとまりを意識して読んだり、文章の中心を捉えて要点をまとめたりする指導する。 ・物語教材では、学び合いの場を設け、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像できるように指導する。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.9	58.9	59.2
	図形	49.7	53.0	53.7
	測定	29.8	33.1	32.6
	データの活用	21.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	50.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	35.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

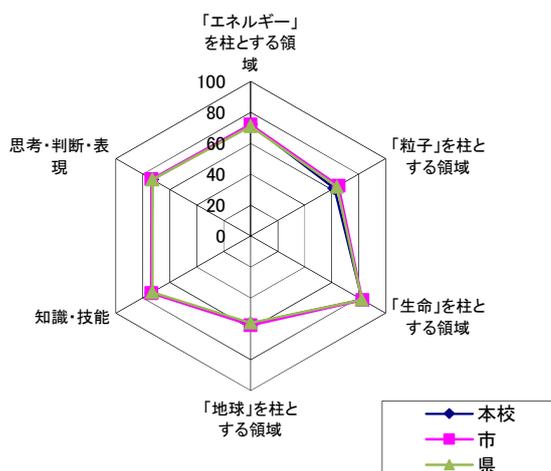
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、平均正答率が68.3%で、市の平均正答率より12.5ポイント上回っている。</p> <p>○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ問題では、平均正答率が88.9%で、市の平均正答率より6.1ポイント上回っている。</p> <p>●整数から小数第一位までの小数を引く問題では、平均正答率が41.3%で、市の平均正答率より14.7ポイント下回っている。</p> <p>●小数を数直線の上に表すとき、どこに位置するかを説明する問題では、平均正答率が17.5%で、市の平均正答率より12.6ポイント下回っている。</p>	<p>・数直線に小数を表したり、位取り板を使って小数と整数の表し方の仕組みを考えたりすることで、小数の仕組みや表し方を理解できるように指導する。</p> <p>・スキルアップタイムを活用し、基本的な計算問題に取り組み、繰り返し練習をすることで計算力の習熟を図る。</p>
図形	<p>○球の半径を利用して箱のたての長さを答える問題では、平均正答率が52.4%で、市の平均正答率より1.8ポイント上回っている。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、平均正答率が27%で、市の平均正答率より11.9ポイント下回っている。</p>	<p>・正三角形の定義を押さえるとともに、円の中心、直径、半径、球の概念については、デジタル教科書やICT教材を活用して視覚的に捉えられるように工夫するなど、正しく理解できるようにする。</p> <p>・コンパスは単に円を描くだけでなく、等しい長さを測り取ったりうつしたりする場面でも活用できることを作図を通して指導する。</p>
測定	<p>○地図から2つの道のりを読み取り、差を答える問題では、平均正答率が54%で、市の平均正答率より8.5ポイント上回っている。</p> <p>●重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ問題では、平均正答率が17.5%で、市の平均正答率より8.8ポイント下回っている。</p> <p>●前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では、27%で、市の平均正答率より7.8ポイント下回っている。</p>	<p>・日常生活の中で時間の長さを意識させる場面を設定することで、経過した時間から時刻を求める方法の理解を深めるようにする。</p> <p>・時間が経過する前の時刻を求める問題において、時計模型を使ったり、図に表現したりするなど視覚的にとらえやすいように工夫し、正しい時刻を求めることができるように指導する。</p> <p>・単位の意味を理解し、長さや重さの単位の換算ができるように、日常生活においても単位を使う場面を増やして、感覚を豊かにする。</p>
データの活用	<p>●棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の種類を答える問題では、平均正答率より42.9%で、市の平均正答率よりも4.9ポイント下回っている。</p> <p>●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題では、平均正答率が6.4%で、市の平均正答率より4.6ポイント下回っている。</p>	<p>・棒グラフの各項目の数量やその違いを読み取る問題に繰り返し取り組むことで、数量の大きさの違いを一目で比べることができるよさを実感しながら棒グラフについての理解を深めるようにする。</p> <p>・棒グラフから読み取れる情報を的確に把握する力を身に付けるために、他教科とも関連付けて指導する。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.1	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	61.9	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	56.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	73.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	73.0	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○ゴムを伸ばす長さや車が動く距離の関係を問う問題では、平均正答率が77.8%で、市の平均正答率より4.9ポイント上回っている。</p> <p>●箱の中の導線の繋がり方を選ぶ問題では、平均正答率が58.7%で、市の平均正答率より9.4ポイント下回っている。</p>	<p>・実験で得た知識を応用するために、発展的な練習問題にも取り組み、様々な状況について考察できるようにしていく。</p> <p>・基本的な回路のつなぎ方を繰り返し確かめることで、知識の定着を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、平均正答率が38.1%で、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・実験や観察などの結果を整理してまとめ、学習内容を確実に理解できるようにする。必要な理科用語についても、繰り返し定着を図る。</p> <p>・実験結果や考察など、考えたことを言葉にしたり、文章にしたりする機会を増やし、表現力を向上させていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○虫めがねの正しい使い方を問う問題では、平均正答率が69.8%で、市の平均正答率より14.5ポイント上回っている。</p> <p>●初めて出てくる葉の名称を答える問題では、平均正答率が69.8%で、市の平均正答率より14.0ポイント下回っている。</p>	<p>・生き物への興味関心が高く、生き物を観察する機会が多いので、今後も継続させていくような機会を増やしていく。</p> <p>・実験や観察などの結果を整理してまとめ、学習内容を確実に理解できるようにする。必要な理科用語についても、繰り返し定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○かげができる向きとかげふみで逃げる方向について選ぶ問題では、平均正答率が74.6%で、市の平均正答率より3.8ポイント上回っている。</p> <p>●太陽が動く方向を選ぶ問題では、平均正答率が46.0%で、市の平均正答率より9.1ポイント下回っている。</p>	<p>・理科の他に、社会科の時間なども活用して、方位について身の回りの生活に関連付けて理解を深めていく。</p> <p>・授業中に観察が難しい現象などは、ICTや動画資料を活用して映像を見ることにより、知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」に肯定的回答をした児童の割合は78.8%で、市の平均より4.6ポイント上回っている。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」に肯定的回答をした児童の割合は66.7%で、市の平均より4.6ポイント上回っている。計画を立て、家庭学習に取り組むことができている児童が多いことが伺える。児童が自主的に取り組めるようにいくつかの学習課題を提示をするなど、引き続き家庭学習にしっかりと取り組むことができる手立てを講じていきたい。また、学級懇談などで話題にし、家庭とも連携して取り組んでいく。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に肯定的回答をした児童の割合は80.3%で、市の平均より4.7ポイント下回っている。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」に肯定的回答をした児童の割合は63.6%で、市の平均より8.9ポイント下回っている。課題に対して自力解決していこうとする意欲が低い傾向にある。今後は、児童自身が興味関心をもてるような課題を設定し、疑問や不思議に思うことを自ら解決していけるように、教材を準備したり声掛けをしたりして学ぶ楽しさを実感できるような授業改善に努めていく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」に肯定的回答をした児童の割合は62.2%で、市の平均より16.4ポイント下回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」に肯定的回答をした児童の割合は、92.5%で、市の平均より3.5ポイント上回っている。友達と話し合う活動の機会があるにも関わらず、自分から進んで参加できていないことが分かる。話し合い活動を意図的に設定するだけでなく、自分の考えを伝えたり意見を聞いたりの活動に、積極的に参加できるようにするとともに、自分の考えを広げたり深めたりすることのよさを実感できるようにしていく。

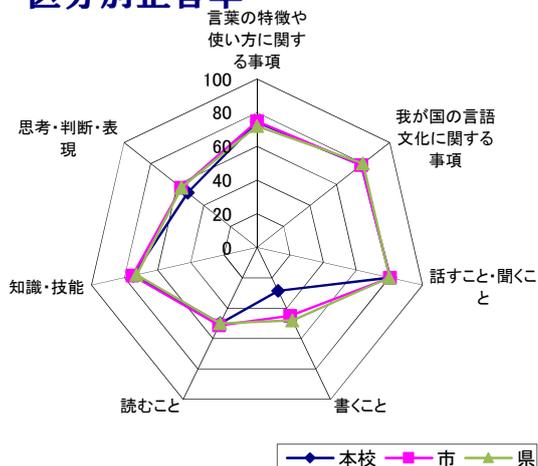
○「自分には、よいところがあると思う。」に肯定的回答をした児童の割合は87.9%で、市の平均より3ポイント上回っている。「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「自分も持っている能力を十分に発っきたい。」に肯定的回答をした児童の割合はともに90%を上回っており、市の平均よりも上回っている。自己肯定感や自己有用感が高い児童が多いことが伺える。今後も、学級活動などで互いを認め合う活動を取り入れ、機会を逃さず称賛するなどして、自己肯定感や自己有用感を高められるように指導していく。

○「毎日、同じくらいの時こくにねている。」に肯定的回答をした児童の割合は83.4%で、市の平均より8ポイント上回っている。また、「早ね、早起きを心がけている。」に肯定的回答をした児童の割合は92.4%で、市の平均より14.3ポイント上回っている。規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多いことが分かる。今後も規則正しい生活の大切さについて指導していくとともに、保健だよりを活用したり、学級懇談で取り上げたりするなどして、家庭と連携して取り組んでいく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.4	80.4	80.0
	書くこと	28.6	45.1	48.0
	読むこと	50.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	52.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

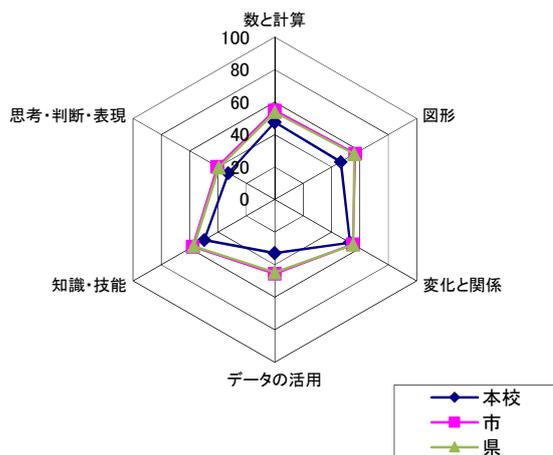
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は74.3%で、市の平均正答率より0.5ポイント下回っている。 ●漢字の読み書きでは、問題によって正答率にばらつきが見られ、定着が不十分である。 ●文の中における修飾の関係を捉える問題では、修飾語がどこに係るかによって正答率にばらつきが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップタイムを活用するだけでなく、AIDリルでの学習や繰り返しの練習をし、適宜確認テストの実施を行うなどして、漢字の読み書きの基礎基本の定着を図る。 ・文の構成に着目させ、修飾と被修飾の関係を意識した短文づくりや読み取りができるように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は78.6%で、市の平均正答率と同じではあるが、決して高いとは言えない。 ○慣用句の正しい意味や使い方を問う問題では、正しく答えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業だけでなく、生活経験と結び付けてことわざや慣用句、故事成語に触れる機会を設け、先人の知恵や教訓や意味を知り、日常生活で使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は80.4%で、市の平均正答率と同じである。 ○司会者の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができている。 ●話し合いの中で、目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動において、相手に伝わるように話したり、聞き手が質問する場面を設定したりして、基本的な話し方・聞き方を身に付けさせるようにする。 ・話し合いをするときは、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら行えるようにする。また、互いの意見を比較し、意見が異なるときは意見の根拠について考えるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は28.6%で、市の平均正答率より16.5ポイント下回っている。 ●指定された長さや段落構成、事実と自分の考えを分けて書くなどの条件に従って文章を書くことについては課題が見られる。 ●記述式の問題の無解答率が市の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短文作りや作文など、文を書く活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、基本的な文の記述の仕方を身に付ける指導をする。 ・内容の中心を明確にし、内容のまとめりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章を書けるように指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は50.0%で、市の平均正答率より1.3ポイント下回っている。 ●物語文では、登場人物の気持ちの変化について具体的に想像して捉えることについて課題が見られる。 ○説明文では、叙述を基に、段落相互の関係を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語教材では、文章を読んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像できるように指導する。 ・学び合いの場を設け、文章の構造と内容を把握して共有し、意見を伝え合うことで、一人一人の感じ方や考え方に違いが出てくることや他者の感じ方のよさを知ったり、気付いたりして、読み方が深まるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.6	54.9	53.7
	図形	46.4	56.6	56.1
	変化と関係	53.0	55.1	55.2
	データの活用	32.9	45.5	44.8
観点	知識・技能	49.7	57.8	57.2
	思考・判断・表現	32.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

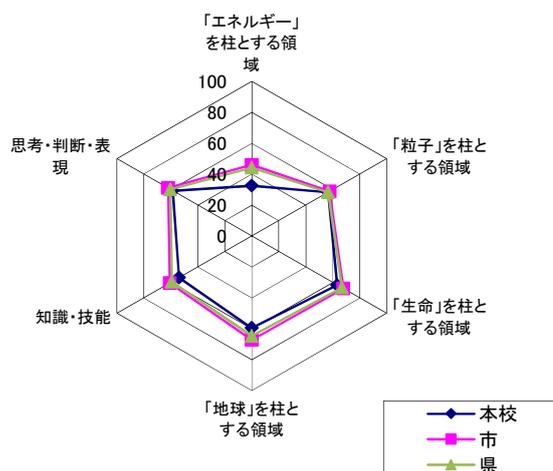
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○四則混合の式の計算の順序の理解についての問題では、平均正答率が38.1%で、市の平均正答率より0.2ポイント上回っている。</p> <p>●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、平均正答率が69.1%で、市の平均正答率より13.3ポイント下回っている。</p> <p>●小数第一位÷整数＝小数第二位の計算をする問題では、平均正答率が40.5%で、市の平均正答率より12.6ポイント下回っている。</p>	<p>・「四則の混じった式では、乗法や除法を先に計算する」という計算の決まりに着目させ、どのような順序で計算すればよいか説明する活動を取り入れ、正しく計算ができるように指導する。</p> <p>・大きな数は、一、十、百、千という数のまとまりの繰り返しであることを押さえるとともに、日常生活との関連を図りながら、大きな数を正しく読んだり書いたりできるようにする。</p> <p>・既習の整数の除法の計算を生かして、小数の除法の場合でも考え方が成り立つことを押さえる。</p>
図形	<p>●180度より大きい角の大きさを求める問題では、平均正答率が26.2%で、市の平均正答率より21.9ポイント下回っている。</p> <p>●三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題では、平均正答率が35.7%で、市の平均正答率より12.5ポイント下回っている。</p>	<p>・角の大きさについての感覚を正しく身に付けることができるように、角の大きさの見当をつけさせ、示された角の大きさを確かめたり作ったりする活動に取り組むことで、理解の定着を図る。</p> <p>・日常的に三角定規を操作する活動を多く設けることで、角の大きさについての感覚が身に付くようにする。</p>
変化と関係	<p>○二つの数量の関係を割合を用いて比べる問題では、平均正答率が69.1%で、市の平均正答率より0.6ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使った比べ方について説明する問題では、無回答率が33.3%と、市平均と比較すると10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・テープ図や線分図を用いた二つの数量の比べ方を様々な考察の場面に取り入れ、割合で見ることのよさに気付かせる。</p> <p>・自分の考えを共通の場で伝え合う活動を設定し、共有したり表現の質を高めたりしながら、的確に説明しようとする意欲を高める。</p>
データの活用	<p>●表から分かることとして正しいものを選ぶ問題では、平均正答率が26.2%で、市の平均正答率より20.9ポイント下回っている。</p> <p>●折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月を答える問題では、平均正答率が42.9%と、市の平均正答率よりも15.4ポイント下回っている。</p>	<p>・二次元表に表す活動の際に、初めから分類整理された状態を与えるのではなく、論理的に起こりうる場合について落ちや重なりがないように児童一人一人に考えをもたせるようにする。</p> <p>・グラフの読み取り方については、社会など他教科と関連付けて、読み取る力を高めていく。また、表から読み取ったことを表現する際には、言葉や文で適切に表現できるように対話的活動の充実を図る。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	32.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	56.7	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	59.5	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	58.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ●並列つなぎの名称を問う問題では、平均正答率が45.2%で、市の平均正答率より15.1ポイント下回っている。 ●簡易検流計の針の振れ方から分かることを答える問題では、平均正答率が19.1%で、市の平均正答率より12.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回路のつなぎ方と特長の理解を深めるために、今後も実験の後にたしかめプリントを使うことで知識を定着させていく。関連する理科用語についても、機会を捉えて繰り返し定着を図っていく。 ・機器の扱い方や操作の習熟を図り、適切に実験ができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○エアコンで部屋全体を温める方法を答える問題では、平均正答率が81.0%で、市の平均正答率より6.7ポイント上回っている。 ●湯気と水蒸気の違いを問う問題では、平均正答率が16.7%で、市の平均正答率より15.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察をした際には、状態の様子や変化、結果を自分の言葉で表現することで、理科用語の適切な使い方や意味について正しく理解できるようにする。 ・今後も興味関心をもって実験や観察を続け、体験として理解できるような機会を増やす。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の順に並べたイチョウの記録を選ぶ問題では、平均正答率が42.9%と、市の平均正答率より4.6ポイント上回っている。 ●腕を伸ばしたときの筋肉の様子を選ぶ問題では、平均正答率が45.2%と、市の平均正答率より18.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入や振り返りで、学習したことと実際の生活を関連付けて考えられるようにする。 ・ICTや動画資料を活用して、授業時間では調べられない内容について、知識を補えるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○水の流れる向きを選ぶ問題では、平均正答率が90.5%で、市の平均正答率を7.1ポイント上回った。 ●雨の日の気温の変化の様子を選び、理由を答える問題では、平均正答率が45.2%で、19.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由を筋道立てて記述できるように、実験の目的や予想、考察を書く機会を増やし、理学的な表現方法を繰り返し身に付けていく。 ・日常生活の中でも、天気と気温の変化の関係を見出していくなど、生活と密接な知識が獲得できるように、授業時間以外でも働きかけていく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」に肯定的回答を児童の割合は100パーセントで、市の平均より3ポイント上回っている。また、「各教科の学習がしょう来のために大切だと思いますか。」の肯定的回答をした児童の割合も全て、市の平均を上回っている。自分の将来のためには、学習することの大切さを十分に理解している様子が伺える。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的回答をした児童は55.8%で、市の平均より7.7ポイント上回っている。自分の考えを表現する楽しさを味わう場を意図的に設定してきた成果が表れ始めたと考え。今後も、自分の考えを表現することで友達に思いが伝わるよさを実感できるように指導に努めていく。

○「毎日、朝食を食べている。」「毎日、同じくらいの時こくねている。」「早ね、早起きを心がけている。」に肯定的回答をした児童の割合は、全て市の平均を上回っている。学びの土台となる健康的な体を作る生活習慣がしっかり身に付いていることが伺える。今後も、各種だよりなどを通して家庭への啓発を行うと共に、家庭と協力しながら学びに向かう健康な心と体づくりを支援していく。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校の授業の復習をしている。」「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」に肯定的回答をした児童の割合は低い傾向にあり、それぞれ市の平均も下回っている。今後は授業で学んだことを、自主学习へとつなげる活動の工夫を行うと共に、見通しをもって、自分で計画を立てて学習する習慣が身に付けられるよう家庭と連携を図りながら支援していく。

●話し合い活動に意欲的に取り組んでいる児童が多い反面、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に肯定的回答をした児童の割合は74.4%で、市の平均より4.3ポイント下回っている。1人1台端末等を効果的に活用するなどして伝え合いや学び合いの場を設定し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業の展開を工夫することで、話し合い、新しい考えを知ることのよさを実感できるように指導していく。

●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」に肯定的回答をした児童の割合は62.8%で、市の平均より8.4ポイント下回っているが、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的回答をした児童の割合は76.8%で、市の平均とほぼ同程度であることから、学ぶ楽しさを実感するグループ活動の充実を図ると共に、児童が興味をもって取り組みたいと思う教材の研究や導入の工夫などを行い、一人一人の学ぶことへの意欲を高める指導に努めていく。

●「自分には、よいところがある。」に肯定的回答をした児童の割合は74.5%で、市の平均より9.3ポイント下回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「自分も持っている能力を十分に発きたい。」に肯定的回答をした児童の割合も市の平均を下回っている。学級活動や委員会活動などで、自分のよさを生かしたり互いを認め合ったりできる場を意図的に設定し、機会を逃さずに称賛するなどして、自己肯定感や有用感を高めるように支援していく。

宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が意欲的に取り組むための授業づくり	児童の興味・関心・意欲を高め、自ら問いをもち意欲的に取り組めるような学習活動を工夫している。また、主体的に粘り強く課題に取り組めるように学習形態など様々な環境を整える工夫をしている。	4・5年生ともに、「勉強していて、おもしろい、楽しい。」の肯定割合は、県や市の平均を下回っていて、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「むずかしい問題にであうと、やる気が出る。」の肯定割合も、県や市の平均を下回っている。
互いの考えや思いを聞き合い、協働的に課題解決に向かうための工夫	相手意識をもち、自分の考えや思いを伝えたり、友達の考えを聞き合ったりする場などの学び合いの工夫をしている。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定割合は、4・5年生ともに県や市の平均を上回っている。一方で、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定割合は、県や市の平均を下回っている。
児童が自分で成長を実感できる振り返りの工夫	授業の終末に、教師が児童一人一人のがんばりやよさなど見取ったことを価値づけて評価したり、児童が自分で成長を実感できるような振り返りを位置づけている。	4・5年生ともに、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の肯定割合は、県や市の平均を下回っている。また、「先生は、学習のことについてほめてくれる。」の肯定割合は、4年生では95.5%、5年生では86.1%で、5年生は県や市の平均を下回ったが高い結果となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、思考・判断・表現の平均正答率は県や市の平均を下回っていて、特に、記述式の設定の正答率が低だけでなく、無解答率が高くなっている。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問の肯定割合は、4・5年生ともに60%を上回っていて、書くことに苦手意識をもつ児童の割合が高い。	言語活動の充実と振り返り活動の工夫	各教科の特質に応じて、言語活動を充実させるなど授業改善に取り組む。また、授業終末時に、学習のめあてに即した振り返りや思考の過程を児童自身の言葉で論述する活動を意図的に取り入れることで、授業を通じた自分自身の成長を実感したり、学んだ知識・理解の定着を図るようにしたりするとともに、書くことに慣れさせていく。
授業中は、課題に対して真面目に取り組む児童が多い。しかし、自ら問いをもち、粘り強く課題解決に取り組む児童の割合は、県や市の割合より低い傾向がある。	児童の興味・関心・意欲を高め、進んで追究したくなるような課題や「教育のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業展開の工夫	児童が自ら学びたい、解決の必要性を感じることで課題の設定を工夫するとともに、1人1台端末を効果的に活用したり、協働的な学びの場を意図的に設定したりして授業改善に取り組む。また、授業の「見直し・まとめ・振り返り」を明確にするなど、分かりやすい授業づくりに取り組む。